『國民新報』1939年8月20日

清掃運動　　―家毎に毎朝門前の掃除をしては如何―

とふはにしく、かしいをつ。らしきのがやをにに、のやをするはになことである。々のがりでにをいたりをしたりするしいもけられるになつた。はとはしくましいことであらう。

の一のはであるべきである。にも、にきてをきをひ、をり、おやおにをききめよとある。もそれはやにふことではなくて、てのにじたことである。これはだいことで、はしてしいではなくいことであり、にさせるべきではなく、らなすべきことであることをしてゐるからである。におやなどのはでなすべきでやのはがやるべきだとふ。くすることによつてのみやにのをすることがるからである。

をとしてのはかしいことながらだのをしてない。やはるにをひ、のはのにつてる。そして、そののさ、なでさへも、さながらののきをしてるのはんとのであらう。にり、んやにいてをやである。これはのやにもをすべきであるが、それよりもらのたることはふまでもない。

かうしてはうだらう、にのをするをこしては、のをしては。これはのからないことであり、にの、になつて、それこそ一二のではなからうか。

やをばにして一をもめないときに、ややはそのをつであらう。に々ののもされるであらう。